

第4回



エコプロダクツ大賞

2007.12.13

主催/エコプロダクツ大賞推進協議会 後援/財務省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・国土交通省・環境省
<http://www.gef.or.jp/ecoproducts/>

持続可能な未来を見つめて

～エコプロダクツで社会を変える～

エコプロダクツが社会に広く受け入れられ、私たちの暮らしの中に深く浸透していくことは、社会経済活動を環境配慮型のものへと変革していく大きなきっかけの一つになります。このため持続可能な社会の実現をめざすわが国には、今後、エコプロダクツがさらに普及していくことが期待されています。またその中では、具体的に環境配慮が盛り込まれることはもちろん、独創性にあふれ、しかも事業者や消費者、投資家さらには市場関係者からも高い評価を受ける、エコプロダクツが求められています。

エコプロダクツ大賞推進協議会は、すぐれたエコプロダクツの表彰を通じて、エコプロダクツの普及に貢献したいと考えています。

目次

第4回 エコプロダクツ大賞について	2
審査委員長講評	4

エコプロダクツ大賞(関係省大臣賞)

エコプロダクツ部門

農林水産大臣賞	ガシャボンアースカプセル昆虫採集(JAN 4543112-48052-1)	5
経済産業大臣賞	ゼログラフィー複合機&プリンター (ApeosPort-III C2200/C3300、DocuCentre-III C2200/C3300 & DocuPrint C2250)	6
国土交通大臣賞	輻射式冷暖房装置ハイブリッドサーモシステム「ecowin」	7
環境大臣賞	鉄道用ハイブリッド車両 キハE200形(C115形主変換装置)	8

エコサービス部門

農林水産大臣賞	グリーンポテト(屋上サツマイモ水気耕栽培システム)	9
経済産業大臣賞	エレベーターのリニューアル	10
国土交通大臣賞	カーウイングスナビゲーションシステム (愛車カルテ/最速ルート探索サービス)	11

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)

エコプロダクツ部門

高効率LED ダウンライト「E-CORE[イー・コア]」(LEDD-44001W-LS1シリーズ)	12
新世代環境対応 X線CT診断装置(TSX-101A)・X線管(CSRX-9266HE-H)・CCDカメラ(VP-34019)	12
外部電源式アイドリングストップ冷暖房システム	13
ソーラー・LED照明灯(LN-LW3A1)	13
お米から生まれた自然塗料 キヌカ	14

エコサービス部門

トナーカートリッジリサイクルプログラム	15
中距離モーダルシフトの開発と持続	15

審査委員長特別賞(奨励賞)

エコプロダクツ部門

地中熱を利用した基礎空調換気システム(ジオパワーシステム)	16
後付け複層ガラス(ポケットサッシ 冴6)	16
木製ブロック「つみっく」	17

エコサービス部門

自然素材(ロハス)リフォーム、LOHAS club(顧客会員制度)	18
レンタルキッズコーナー「リトルツリー」	18

エコプロダクツ大賞について

1 趣旨・目的

企業等による環境負荷の低減に配慮した製品またはサービス(エコプロダクツ)の開発・製品化への取り組みが広がる一方、エコプロダクツが社会に広く受け入れられ、私たちの生活の中に深く浸透していくことは、社会経済活動を環境配慮型のものへと変革していく大きなきっかけの一つになります。このため持続可能な社会の実現をめざすわが国においては、今後、具体的な環境配慮が盛り込まれていることはもちろん、独創性にあふれ、しかも事業者や消費者、投資家、市場関係者からも高い評価を受ける、すぐれたエコプロダクツがさらに普及していくことが期待されています。

「エコプロダクツ大賞」はこのような状況を背景に、すぐれたエコプロダクツを表彰することによって、それらに関する情報を需要者サイドに広く伝えるとともに、それらの供給者である企業等の取り組みを支援することで、わが国におけるエコプロダクツのさらなる開発・普及を図ることを目的に、2004年度に創設されたものです。

これまで本表彰制度において大賞、優秀賞及び奨励賞を受賞した企業・団体においては、受賞によって受賞製品や企業・団体の知名度や認知度、ブランド価値が高まり、ほとんどの受賞者が受賞結果をパンフレット等に記載したり、広告や営業活動等に積極的に利用しており、本表彰制度がエコプロダクツの普及に大きな役割を果たしたことが明らかとなっています。

奨励賞は、第2回から、中小企業のエコプロダクツへの取り組みを奨励するために、審査委員長特別賞(奨励賞)として設けられているものです。

2 募集対象

日本国内において製品・サービスとしてすでに市場に提供されているエコプロダクツまたはエコサービスであって、需要者が容易に入手または利用可能なもの。また、一般消費者向けの製品・サービスはもちろん、B to Bも対象としました。なお、応募時点で市場に提供されていない製品・サービスも、2007年11月末までに提供開始することを条件に、特例として受け付けました。なお、過去のエコプロダクツ大賞において受賞したものと同一の製品・サービスは対象外としました。

3 表彰部門・賞の種類

① 表彰部門

「エコプロダクツ部門」

環境負荷の低減を目的に、さまざまな技術や手法等を活用するなどして開発され、日本国内市場において製品化(提供)されているもの。

「エコサービス部門」

わが国の社会経済を取り巻く環境問題に対して、環境負荷の低減を目的に提供されているサービス、あるいは持続可能なビジネスモデルを創出して環境負荷の低減を図っている新たな環境配慮型のサービスであって、日本市場に導入されているもの。

② 賞の種類

上記の二つの部門に対してそれぞれ、下記のエコプロダクツ大賞(関係省大臣賞)及びエコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)、審査委員長特別賞(奨励賞)が授与されます(該当がない場合もあります)。

●エコプロダクツ大賞(関係省大臣賞)

- ・財務大臣賞 <賞状、副賞>
- ・厚生労働大臣賞 <賞状、副賞>
- ・農林水産大臣賞 <賞状、副賞>
- ・経済産業大臣賞 <賞状、副賞>
- ・国土交通大臣賞 <賞状、副賞>
- ・環境大臣賞 <賞状、副賞>

●エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)(賞状)

●審査委員長特別賞(奨励賞)(賞状)

4 審査基準

審査は、下記の基本的考え方を踏まえた上、すぐれていると評価されるエコプロダクツを選考しています。

- 当該エコプロダクツの導入による環境負荷の低減が明らかなものであること
- 事業者や消費者、投資家、市場関係者等による一定の評価が得られているエコプロダクツであること
- 利用しようとする者が、国内市場において容易に供給やサービスを受けられるエコプロダクツであること
- 環境教育的効果が認められる等、持続可能な社会づくりへ向けた社会意識の向上に資するエコプロダクツであること

5 審査方法

応募案件は、予備選考を経た後、エコプロダクツ大賞推進協議会に設置した審査委員会において最終審査を行いました。

審査委員

委員長	石谷 久	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
委員	笠井 俊彦	環境省総合環境政策局環境経済課長
	加藤 三郎	NPO 法人環境文明21 共同代表
	君塚 秀喜	経済産業省産業技術環境局環境調和産業推進室長
	桑田 俊一	国土交通省総合政策局環境政策課長
	小部 春美	国税庁課税部酒税課長
	下村 聡	農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課バイオマス推進室長
	武田 俊彦	厚生労働省医政局経済課長
	辰巳 菊子	社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会常任理事
	永松 恵一	社団法人日本経済団体連合会常務理事
	山本 良一	東京大学生産技術研究所教授 (委員長を除く氏名の五十音順)

6 応募状況・審査結果

エコプロダクツ大賞は、「エコプロダクツ部門」と「エコサービス部門」で構成されますが、今回の大賞には「エコプロダクツ部門」125件、「エコサービス部門」30件のあわせて155件の応募がありました。

エコプロダクツ大賞推進協議会内に設置された審査委員会(審査委員長:石谷 久/慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)における審査の結果、もっともすぐれたエコプロダクツとして、エコプロダクツ部門において農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞の4件の大賞が、エコサービス部門において農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞の3件の大賞が、それぞれ決まりました。

また、大賞に次いですぐれたエコプロダクツとして、エコプロダクツ部門で5件、エコサービス部門で2件がエコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)に決まりました。さらに、中小企業からの応募案件を対象にした審査委員長特別賞(奨励賞)として、エコプロダクツ部門3件、エコサービス部門2件が表彰されることとなりました。

審査結果は右記の通りです。

エコプロダクツ部門

農林水産大臣賞

ガシャボンアースカプセル昆虫採集(JAN 4543112-48052-1)
株式会社バンダイ

経済産業大臣賞

ゼログラフィ複合機&プリンター
(ApeosPort-III C2200/C3300, DocuCentre-III C2200/C3300 & DocuPrint C2250)
富士ゼロックス株式会社

国土交通大臣賞

輻射式冷暖房装置ハイブリッドサーモシステム「ecowin」
株式会社エコファクトリー

環境大臣賞

鉄道用ハイブリッド車両 キハE200形(C115形主変換装置)
東日本旅客鉄道株式会社/株式会社日立製作所
(以上、関係省大臣賞4件)

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)

高効率LEDダウンライト「E-CORE[イー・コア]」(LEDD-44001W-LS1シリーズ)
東芝ライテック株式会社

新世代環境対応 X線CT診断装置(TSX-101A)・
X線管(CSRX-9266HE-H)・CCDカメラ(VP-34019)
東芝メディカルシステムズ株式会社/東芝電子管デバイス株式会社

外部電源式アイドリングストップ冷暖房システム
東京電力株式会社/日野自動車株式会社/株式会社デンソー/大崎電気工業株式会社

ソーラー・LED照明灯(LN-LW3A1) シャープ株式会社

お米から生まれた自然塗料 キヌカ 日本キヌカ株式会社
(以上、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞5件)

審査委員長特別賞(奨励賞)

地中熱を利用した基礎空調換気システム(ジオパワーシステム)
株式会社ジオパワーシステム

後付け複層ガラス(ポケットサッシ 苺6) 株式会社ビッキマン

木製ブロック「つみっく」 株式会社つみっく

(以上、審査委員長特別賞3件)

エコサービス部門

農林水産大臣賞

グリーンポテト(屋上サツマイモ水気耕栽培システム)
株式会社NTT ファシリティーズ

経済産業大臣賞

エレベーターのリニューアル 東芝エレベーター株式会社

国土交通大臣賞

カーウイングスナビゲーションシステム
(愛車カルテ/最速ルート探索サービス) 日産自動車株式会社

(以上、関係省大臣賞3件)

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)

トナーカートリッジリサイクルプログラム キヤノン株式会社

中距離モーダルシフトの開発と持続 株式会社日立物流

(以上、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞2件)

審査委員長特別賞(奨励賞)

自然素材(ロハス)リフォーム、LOHAS club(顧客会員制度)
株式会社オクタ

レンタルキッズコーナー「リトルツリー」 株式会社イケヤ

(以上、審査委員長特別賞2件)

エコプロダクツ大賞審査委員会 審査委員長講評



審査委員長 石谷 久

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授

本賞も4回を数えて応募件数、内容ともに毎年ほぼ同様なレベルに落ち着いてきた。応募製品、サービスも省エネ性、リサイクル性を中心とした環境性能を特徴とする多様な対象範囲に広がった。これは京都議定書の目標達成に苦慮している日本の社会の環境への関心の高さを反映したものと見え、本賞がそのような動きを推進、加速するのに少しでも貢献することを願うものである。

今年度も従来と同様に多様な特徴、効果を持つ製品・サービスの中から環境性、省エネ性に優れた対象が選定されたと信じているが、今回、審査委員会の中で以下の2点が特に議論となった。一つは、単に応募案件の環境性のみならず、その分野の他の製品・サービスと較べて優れて環境性能が高いものが本賞の対象として適当である点を確認したこと、第2の点はとくにサービス分野での実績を重視したことである。製品でも実績は重要であるが、市場に出た製品はその機能、性能が明確、かつ客観的に評価しやすいのに対し、サービスは実際に社会に定着するまでに試行錯誤が繰り返される。その過程と最終的なサービスの実績と効果こそが重要な評価対象であると判断した。そのため、今回、長期にわたって実施されてきたサービスが選定された反面で、新たなユニークかつ将来有望とみられる対象が選に漏れたケースもある。今後、十分な実績をあげたうえで再度の応募をお願いしたい。

個々の受賞案件は別途紹介されているが、まずエコプロダクツ部門では、製品の中で農林水産大臣賞は素材の環境性以外に、教育効果が評価されたという点でユニークである。経済産業大臣賞は省エネ、リサイクルなど現在の課題の多面的な解決を目指した製品であり、国土交通大臣賞、環境大臣賞は、それぞれ対象は異なるが、現在利用可能な技術を系統的に統合、有効に活用した製品であって、今後目指すべき方向をよく示したものと見える。

エコサービス部門では、やはり農林水産大臣賞がユニークで単に省エネに貢献するばかりでなく、環境への意識を高めることも期待される。経済産業大臣賞は地味ながら省エネ、省資源に実質的に貢献できるサービスであり、国土交通大臣賞はいま強く要請されているエコドライブをガイドすることで、間接的に消費者の環境への関心を高める効果も期待される。

その他、会長賞、奨励賞などいずれも省エネ、省資源の推進に貢献するものとみられる。こういった多様な製品・サービスによって、今、強く要請されている民生部門の省エネ、CO₂削減が、今後一層、加速されることを期待したい。

農林水産大臣賞

名称

ガシャポンアースカプセル昆虫採集 (JAN 4543112-48052-1)

会社名・事業所名

株式会社バンダイ



出品者
アピール

地球環境を考えた新素材の玩具として、玩具業界で初めてバイオマスチップを使用した商品を企画・開発し、社団法人日本有機資源協会のバイオマス認定マークを玩具で初めて取得して販売。

「アースカプセル昆虫採集」とは、再生可能な植物由来の有機資源であるバイオマスから生まれたバイオマスチップを使用した、リアルな昆虫フィギュア。原料に千葉県山武市で間伐されたスギの廃材をリサイクルした木製チップを使用しており、無着色のため、手触りや色みなど一つひとつが異なる天然木材の素材感を楽しむことができる。また、カプセル素材もバイオマスチップを利用しており、外装シュリンクフィルムは、ポリ乳酸を使用して、環境負荷の低減を徹底して実現した。カーボンニュートラル素材であることや可燃ごみとしての処分が可能なことなどにより、環境の負荷を抑えることができるだけでなく、子供たちが地球環境や自然環境について考えるきっかけになればと考えている。販売価格は、従来製品と同等に設定して購買しやすくした。

評価

本製品は、本体及びカプセルの原料として、千葉県で間伐された杉材から作成した木製バイオマスチップを70%用いているほか、外装シュリンクフィルムにはポリ乳酸を用いているなど、地域に存在するバイオマス資源などを積極的に利用したものである。

また、子供に特に人気のある昆虫の模型でこのようなバイオマスの利用を実現していることから、子供たちが環境問題などを考えるきっかけにもなり得るものであり、特に優れた製品である。

経済産業大臣賞

名称

ゼログラフィ複合機&プリンター

(ApeosPort-III C2200 / C3300

DocuCentre-III C2200 / C3300 & DocuPrint C2250)

会社名・事業所名

富士ゼロックス株式会社



出品者 アピール

石油などの枯渇資源への対応、CO₂排出量の削減を目的として、内部のカバーに、業界初の性能を持つバイオマス樹脂材料(植物由来樹脂)を開発・導入し、さらにシャフト類には鉛フリー材料(鉛フリー快削鋼)の全面採用、ハロゲン含有材料の撤廃(ハロゲンフリー化)、従来は無かったリサイクル方法による外部カバー用樹脂の採用、省エネへの対応を可能にしたコントローラーや定着器を搭載した、複合機・プリンターを発売した。

事務機器では以前より、エネルギー消費の低減を中心に環境対応が行われていたが、富士ゼロックスでは省エネのみならず、商品を構成している部品すべてに目を向け、その材料から見直すことにより省資源化と部品の再使用を可能とする資源循環型商品を提供すべく、技術・開発・生産に至るまで連携し、実現にむけて進めてきた。

今回の商品には現在可能(性能、コスト)と考えられている、ほぼすべての面での環境技術を取り入れている。

評価

製品のライフサイクルにおけるエネルギー消費の低減に加えて、全ての使用部品の材料を見直し省資源化とリサイクル部品の再使用を可能とする資源循環型複合機・プリンターである。石油などの枯渇資源への対応とCO₂排出量の削減を目的としたバイオベース素材(植物由来樹脂)を開発・導入し、ハロゲン含有材料の撤廃(ハロゲンフリー化)、省エネルギーへの対応を可能にしたコントローラーや定着器を搭載するなど、エコプロダクツとして大変優れている。性能、コスト面で、現在可能と考えられている多くの環境技術を取り入れ、リサイクル部品の再使用システムを構築するなど、循環型の生産に対する長年の企業姿勢が高く評価できる。

国土交通大臣賞

名称

輻射式冷暖房装置ハイブリッドサーモシステム「ecowin」

会社名・事業所名

株式会社エコファクトリー



出品者 アピール

輻射による熱移動の原理を応用し、空調エネルギーの大幅な削減を可能とした輻射式冷暖房装置である。人や周囲の物質を輻射により直接的に熱交換するため局所的な寒暖の差を生まず、冬は陽だまりの中、夏は蔵の中のような空間となる。また無動力のため静かで、埃の巻上げもなく快適な室内環境を実現。発熱体素子の流体の熱エネルギーを遠赤外線放射率93%のハイブリッドサーモコーティングで効率を高めると共に、自然対流とハイブリッドサーモコーティングの効果により臭気やVOCを吸着分解し周辺空気の清浄化も同時に行う多機能性を併せ持つ。組立てジョイント方式とする事で、搬送エネルギーの軽減及びリサイクルのための完全分離化や搬入に制約を無くす事が可能となり、社会ストックとしての各種用途のリフォームなどへの柔軟な対応が可能である。高効率ヒートポンプチラーユニットの採用によりエネルギー効率を飛躍的に高め、省スペースでベランダにも設置が可能。省エネルギー性や、デザイン性、清浄性、多機能性により、住宅、病院、老人ホーム、クリーンルーム、図書館、美術館、アトリウム空間、リフォーム等のさまざまな用途に最適である。

評価

高効率ヒートポンプシステムと輻射による熱移動を採用した本製品は、冬は日だまりの中、夏は蔵の中にいるような空間を実現。快適感、清浄性、省エネ性、デザイン性、施工性に富んだ空調装置であり、住宅、病院、老人ホーム等さまざまな用途に適しておりエコプロダクツとして大変優れている。耐久性の向上、分解リサイクルを可能とし、リデュース・リユース・リサイクルにも配慮され、高く評価できる。

環境大臣賞

名称

鉄道用ハイブリッド車両 キハE200形(C115形主変換装置)

会社名・事業所名

東日本旅客鉄道株式会社／株式会社日立製作所



出品者 キハE200形は、非電化鉄道路線向けディーゼルエンジン
アピール 気動車の環境負荷低減を目的に開発された、世界初の
営業用ハイブリッド車両である。蓄電用のリチウムイオン電池・主電動機と電力主変換装置の協調運転により、従来の気動車では不可能であったブレーキ・エネルギー回収を、蓄電池に充電することで可能とした。この蓄電エネルギーを力行(加速)時に有効再利用することとエンジンの高効率運転により、キハE200形の燃料消費率は現行の気動車(キハ110系)に対し、約10%向上した。また、最新の排ガス対策を施した発電用ディーゼルエンジンを電力変換装置の『エネルギー管理制御システム』により制御(必要時のみ最高効率運転、ブレーキ・駅停車中等はアイドルストップによりエンジンの動作時間を低減)し、排気中の窒素酸化物(NOx)、黒鉛等粒子状物質(PM)を約60%低減、駅停車中の騒音を約30dB静粛化することで環境負荷を低減した。

評価 非電化鉄道路線向けディーゼルエンジン気動車の環境負荷低減を目的に開発された、世界初の営業用ハイブリッド車両であり、鉄道車両の環境負荷低減に向けた新たな方向性を示したものとして評価できる。従来の気動車では不可能であったブレーキ・エネルギー回収を、蓄電池に充電することで可能とし、この蓄電エネルギーを力行(加速)時に有効再利用することとエンジンの高効率運転により、燃料消費率を現行の気動車に比べ、約10%向上させ、CO₂排出削減にも貢献する。また、駅停車中等はアイドルストップによりエンジンの作動時間を減らし、排気中の窒素酸化物(NOx)、黒鉛等粒子状物質(PM)も約60%低減される一方、駅停車中の騒音を約30dB静粛化することも実現した。

農林水産大臣賞

名称

グリーンポテト (屋上サツマイモ水気耕栽培システム)

会社名・事業所名

株式会社 NTT ファシリティーズ



**出品者
アピール** 近年都市化により問題となっているヒートアイランド現象の緩和対策として効果の高い、サツマイモによる屋上緑化を行うシステム。

本システムの特徴は大きく3点。一つは水気耕栽培を利用しており、緑化するための土壌が不要で、簡単に屋上緑化ができる点。二つめは、植物は葉からの蒸散による気化熱でまわりの気温を下げるためヒートアイランド緩和効果があり、その蒸散量が芝の約1.5倍で、かつ茎葉高さが40～50cmで遮熱効果が高い「サツマイモ」を栽培している点。三つめは、栽培槽を中心にサツマイモのツルが放射状に生長していくことから、緑化面積に対して緑化基盤を小さく(最大4%まで縮小)し、システム荷重を軽減できる点である。

また、ただ緑化するだけでなく、植物が大きく生長していくことを体験することによる癒し効果、入居者がサツマイモの定植・ツル入れ・収穫祭などに参加することにより環境問題を考えたり、コミュニケーションや環境教育の場として提供することが可能である。

評価

ヒートアイランド現象への対策の一つとして屋上緑化は有効なものであるが、本サービスは、土壌が不要であるなどのため比較的容易に屋上緑化を実現できる、蒸散量が多く葉茎の高さが40～50cmあるサツマイモを用いるためヒートアイランド緩和効果が高い、サツマイモのツルは放線状に成長していくことから緑化面積に比して緑化基盤を小さくできる、などの特徴を持つ。

また、単純な屋上緑化に比べ、サツマイモを用いることにより、その収穫などに参加できるなど、農業や環境問題について考える機会を与えるものであるなど、特に優れたサービスである。

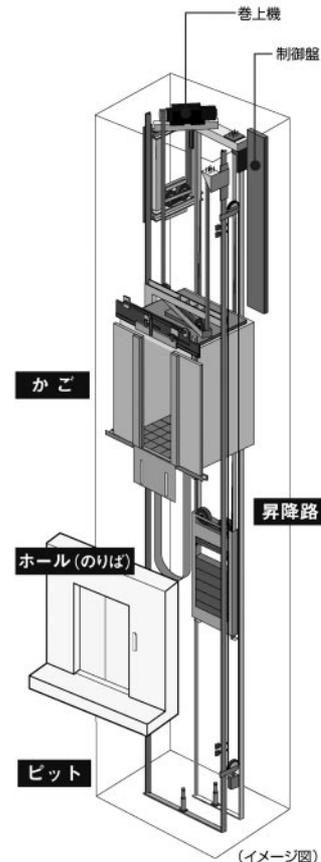
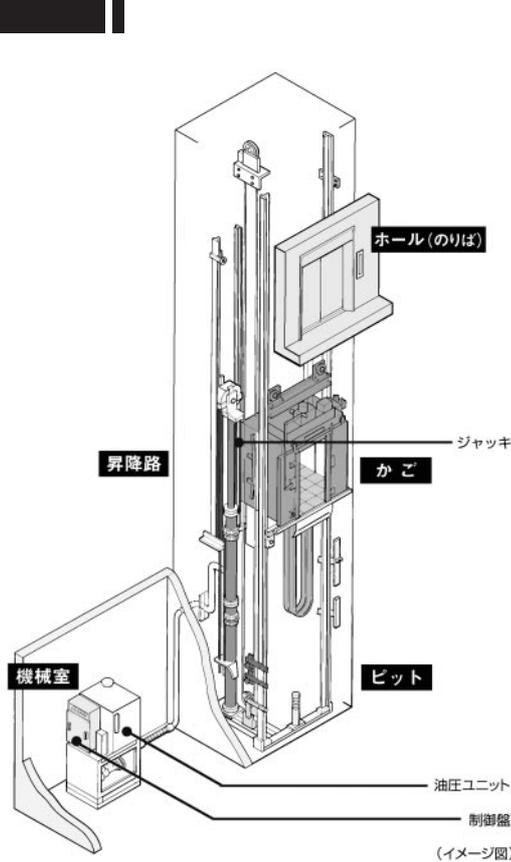
経済産業大臣賞

名称

エレベーターのリニューアル

会社名・事業所名

東芝エレベーター株式会社



出品者 当社では既設のエレベーターを最新機種に入れ替えるリ
アピール ニューアル事業を進めている。リニューアルはエレベーター機器の全てを取り替える全撤去タイプのほか、既設のガイドレールや出入口の三方枠を残した準撤去タイプにも対応し、継続活用が可能な既存の資源を有効活用している。既存の中低層ビルの多くには油圧エレベーターが設置されており、この既設エレベーターをロープ式マシナールームレスエレベーターにリニューアルする要望に対応できるように、リニューアル専用のかごを開発した。油圧エレベーターは油圧の力でかごを直接上下させるため、多くの電力を消費するが、ロープ式マシナールームレスエレベーターではギヤレス巻上機を使用し、つるべ式にすることで消費電力を73%低減できる(住宅用9人乗り速度60m/分の場合、当社比)。また、作動油を使用しないため環境負荷が小さく、油圧エレベーターで使用した専用機械室が不要になり、別の用途に転用できるといった効果も得られる。

評価 既設のエレベーターを、環境負荷を低減した最新機種に入れ替えるリニューアル事業である。全撤去タイプのほか、既設のガイドレールや出入口の三方枠を残した準撤去タイプにも対応し、継続活用が可能な既存の資源を有効活用している。既設の消費電力の多い油圧エレベーターをロープ式マシナールームレスエレベーターにリニューアルするための専用のかごを開発し、ギヤレス巻上機を使用することによってエネルギー効率が向上し、消費電力を大幅に削減できるなどエコサービスとして大変優れている。天井照明器具の長寿命化、廃棄物・有害物質を削減するなど、環境負荷低減効果の高い点も高く評価できる。

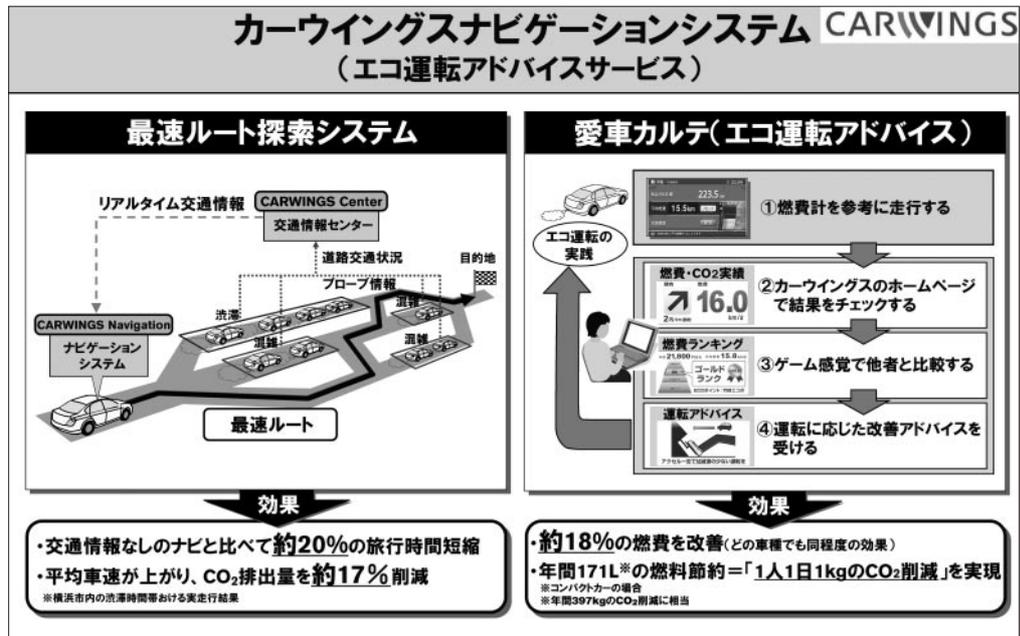
国土交通大臣賞

名称

カーウイングスナビゲーションシステム (愛車カルテ／最速ルート探索サービス)

会社名・事業所名

日産自動車株式会社



出品者 日産自動車は、2006年12月、CO₂排出量削減
アピール を最重要課題とした「ニッサン・グリーンプログラム 2010」を公表した。新車のCO₂排出量を2050年までに2000年レベルより70%削減するために、クルマ・人・交通環境の三つの側面から、包括的にCO₂排出量を削減する取り組みを推進している。

クルマの走行時のCO₂排出量は、クルマの性能や燃料の種類だけでなく、運転の仕方や道路の交通状況等にも大きく左右される。しかしながら、従来は、交通状況に能動的に対処し、ドライバーの運転方法を改善する有効な手段がなかった。

日産カーウイングスのエコ運転アドバイスサービスはIT技術の活用により、人に働きかけてクルマの実用燃費を改善し、CO₂排出量を削減するエコ運転支援システムである。目的地まで最も速く到着するルートの提供を行う「最速ル

ート探索システム」と、エコ運転スキルを向上させ持続的なエコ運転を動機づける「愛車カルテ(エコ運転アドバイスシステム)」を組み合わせることで、交通環境に能動的に対応し、ドライバーの運転方法を改善する。2007年1月に乗用車向けに世界で初めて日産がリリースし、実用燃費の大幅な向上(約20%)を達成する革新的な仕組みとして非常に高い評価を得ている。

評価 IT技術の活用により、人に働きかけて自動車の実用燃費を改善し、CO₂排出量を減らすエコ運転支援システム。目的地までの最も早い到着ルートの提供を行う「最速ルート探索システム」と、エコ運転スキルを向上させ持続的なエコ運転を動機づける「エコ運転アドバイスシステム」を組み合わせることで、能動的に交通環境に対応し、ドライバーの運転方法を改善し、実用燃費の大幅な向上を達成するなど運輸部門の地球温暖化対策の最大の課題であるマイカーからのCO₂排出量削減を推進する観点からも高く評価できる。

名称 **高効率LEDダウンライト「E-CORE[イー・コア]」** (LEDD-44001W-LS1 シリーズ)

会社名・事業所名 **東芝ライテック株式会社**

出品者 E-CORE (イー・コア)は
アピール 照明業界最高の総合効
率50lm/W (ルーメン毎ワット)を実現
し※1、当社従来の40W形白熱灯ダウ
ンライト※2と同等の明るさを持ちなが
ら、消費電力を36Wから5.3Wと大幅

に低減した高い省エネルギー性を有
する、施設・店舗・住宅などで広く使
える高効率LEDダウンライトである。
1日10時間点灯の場合、1台あたりの
年間CO₂排出量※3は従来の器具の



73kgに対してE-COREは11kgとな
り、62kg (約85%)削減す
ることができる。徹底し
たコストダウンにより普及
価格を実現し、白熱灯ダ
ウンライトとの初期設備
費の差をランニングコス
ト(電気料金)によって早
期に回収することが可能
で、経済的な観点からも

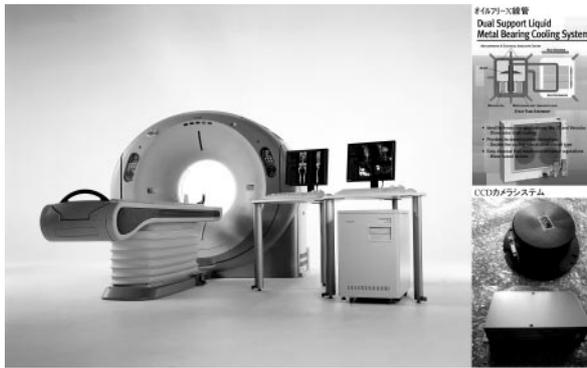
LED照明の普及を促進できる。

- ※1 第4回エコプロダクツ大賞応募時点
- ※2 当社白熱灯器具ID-7200NB+40W形
ミニクリプトランプの組合せ
- ※3 CO₂排出量は消費電力量に排出係数
0.555kg-CO₂/kWhを乗じて算出

評価 施設・店舗・住宅などで広く使える
LEDダウンライト。従来の白熱灯ダ
ウンライトに対してエネルギー消費量が約7
分の1、価格差は約3.2倍と、京都議定書目
標達成計画に基づくLED照明の要求性能(エ
ネルギー消費量、価格)を日本で初めて達成
し、地球温暖化防止と経済性が両立できる点
を評価した。また、従来型に比べ20倍の長
寿命であり、使用資源量は従来の白熱灯ダウ
ンライトの67%と大幅に削減され、ライフ
サイクルを通して省資源にも大きく寄与する。

名称 **新世代環境対応 X線CT診断装置(TSX-101A)・X線管(CSRX-9266HE-H)・CCDカメラ(VP-34019)**

会社名・事業所名 **東芝メディカルシステムズ株式会社/東芝電子管デバイス株式会社**



出品者 ●東芝メディカルシステム
アピール ズ(株)のX線CT診断装置
最速0.35秒1回転で同時に64枚の断
面画像データを集積できることで、心臓
検査への適用など臨床応用が飛躍的
に向上した。またX線被ばく低減や鉛
65%削減、省エネ・省資源化50%削減
など環境面に配慮している。

●東芝電子管デバ
イス(株)のオイルフ
リーX線管
従来の絶縁油に替
えて、より冷却性能に
優れた水系冷却液
と両端支持型の液
体金属潤滑動圧す
べり軸受を世界で初
めて採用し、同一寸法の従来方式比で
冷却性能を約2倍に、焦点寸法を5分
の4に改善。水系冷却液は従来の絶縁
油よりも生分解性に優れるため、緊急時
の環境リスクを低減させることができた。
●東芝電子管デバイス(株)のイメージ管
用CCDカメラシステム
従来のCCDカメラシステムの回路構成の

改良、IC化による部品点数削減、RoHS
対応により、従来比約50%の重量削減、
約60%の容量削減、約9%の消費電力
を削減した。

評価 医療機器は医療現場で人体に利用さ
れることから、機能のプライオリティ
ーとして、安心・安全が挙げられる。そうい
った特殊性から、従来の製品では環境に配慮
した製品はごく少数であったが、当該製品にお
いては、環境負担の低減を性能の向上とともに
重視した製品であると認められる。
製造から廃棄段階まで一貫して環境への影響
に配慮した製品であることが評価に値する。
製品を製造するメーカーとして環境指標によ
る製品の評価や、グループ企業との水平リユ
ースを行うなど環境負担の低減に取り組む姿
勢も評価に値する。

名称 外部電源式アイドリングストップ冷暖房システム

会社名・事業所名 東京電力株式会社／日野自動車株式会社／株式会社デンソー／大崎電気工業株式会社

出品者 アピール

CO₂削減の有効な方策としてアイドリングストップが注目されている。長距離トラックの場合、ドライバーの仮眠・休憩や、荷待ちなどの際、運転室内の冷暖房のために、やむを得ずエンジンをかけたまま待機するケースがあり、こうしたアイドリングを抑制できるエコプロダクツへのニーズが高まっていた。そこで、トラックの運転席に設置する「外部電源式冷暖房装置」に、駐車場に設置する「給電スタンド」から系統電力を直接供給することで、エンジンをかけずに運転室内の冷暖房を行えるシステムを開発・実用化。日本初となる当システムの利用によ

り、CO₂排出量を98%低減*。燃料消費コストも大幅に低減し、運輸事業者の経費低減にも貢献する。

※実証試験の結果より

評価

トラックの運転席に設置する「外部電源式冷暖房装置」に、駐車場に設置する「給電スタンド」から系統電力を直接供給することで、エンジンをかけずに運転室内の冷暖房を行えるシステム。長距離トラックの場合、ドライバーの安全運転に必要な仮

眠・休憩や、荷待ちなどの際、運転室内の冷暖房のために、やむを得ずエンジンをかけたまま待機するケースが多いことから、当該システムの普及により、CO₂排出量の大幅な削減が期待される点を評価した。



名称 ソーラー・LED照明灯 (LN-LW3A1)

会社名・事業所名 シャープ株式会社

出品者 アピール

昼間は太陽電池で発電した電気を蓄電池に蓄え、夜間はその電気をを用いて照明を行うので、運転時にはCO₂を排出せず、商用電源を使用した場合に比べて1年間に約48kgのCO₂を削減できる。また、最新の高輝度・長寿命LEDの採用により、灯具光束1,800ルーメンで32W蛍光灯(コンパクト形蛍光灯の6本管形)の防犯灯に匹敵する明るさを実現。無日照7日間を補償。光源のLEDは環境負荷物質の水銀を使用しておらず、また人体に有害な紫外線を発生しない。また長寿命40,000時間で約10年間は光源を取り替える必要がない。蓄電池の取り替え作業以外では通常の防犯

灯が必要とされる電気代、蛍光灯の取り替え費用、蛍光灯の廃棄費用など管理費用を大幅に削減できる。

評価

昼間は太陽電池で発電した電気を蓄電池に蓄え、夜間はその電気をを用いて照明を行う自立型のソーラー・LED照明灯である。運転時にはCO₂を排出せず、商用電源を使用した場合に比べて1年間に約48kgのCO₂を削減できる。また、最新の高輝度・長寿命LEDの採用により業界トップクラスの明るさを実現しながら省エネルギー効果が大きく、優れたエコプロダクツである。環境負荷物質の水銀を使用せず、蓄電池の完全回収サイクルシステムを構築し、省資源化にも取り組んでおり、光公害を防止し、防犯につながるなどの点も評価できる。



名称 **お米から生まれた自然塗料 キヌカ**

会社名・事業所名 **日本キヌカ株式会社**

出品者 「キヌカ」の原材料は米糠。
アピール 米糠は玄米を精米する際に排出され、そのほとんどが再利用されない産業廃棄物。現在、住宅用建築用塗料のそのほとんどが石油を原料とした石油溶剤系塗料であり、製造から使用段階、廃棄の段階にいたるまで環境への負荷は計り知れない。さらに、シックハウス症候群に代表される健康に対する負荷は大きな社会問題にもなっている。今、私たちの主食であるお米、その機能性を最大限に活用すること、さらに消費減退で生産調整を余儀なくされている食用としてのお米だけでなく、住宅建築塗料用原料となるお

米の栽培も含め、水田へ稲を植え、国土全体の全水田機能を保存維持継承することは、お米を中心とした循環型社会を構築するための第一歩となる。



評価 本製品は、米ぬかを有効利用して商品化したバイオマス製品であり、溶剤を一切使用していない。シックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドの放散量が測定下限値以下であり人体に対する安全性が極めて高いなどの特徴をもっている。

また、木になじみやすく木目が際立つことから木材の利用にも寄与するほか、粘性が低く塗布面積が広い、乾燥時間が短い、など塗料としても優れた性質をもち、優れた製品である。

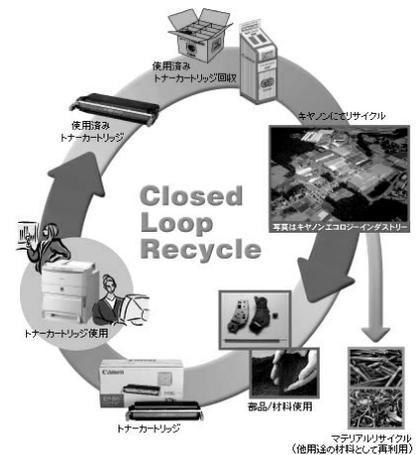
名称 **トナーカートリッジリサイクルプログラム**

会社名・事業所名 **キヤノン株式会社**

**出品者
アピール** 使用済みトナーカートリッジを無償で回収／リサイクルするエコサービスを提供している。1990年、法規制がない中で企業責任として独創したこの活動は、現在グリーン購入条件になる等、業界標準となっている。回収量は全世界で累積約14.5万tに上り、新品への部品リユース、マテリアルリサイクル等を行うことで100%再資源化し、埋立廃棄は行っていない。結果、累積約10万tの新規資源抑制と、約27万tのCO₂削減を果たした。また環境教育を目的にベルマーク活動に協賛し、学校で回収されたトナーカートリッジにベルマーク点

数を付与している。回収が点数に繋がるため、子どもが体感しながらリサイクルを学習できる機会となっている。

評価 トナーカートリッジの回収自体は1990年から行われており、100%再資源化され、その結果、累積約10万tの新規資源の使用を抑制し、これによって約27万tのCO₂を削減している。また、リサイクルプログラムが長く継続されている点も評価した。一方、環境教育を目的にベルマーク活動に協賛し、学校で回収されたトナーカートリッジにベルマーク点数を付与することで、子どもがリサイクルを体感しながら環境について自然に学習でき、普段の行動から無理なく継続できる活動であることも評価した。



名称 **中距離モーダルシフトの開発と持続**

会社名・事業所名 **株式会社日立物流**

**出品者
アピール** 地球環境にも適した輸送システムで、特に大きな効果が期待できる方法として、輸送手段をトラックから鉄道や船へ切り替えるモーダルシフトを積極的に推進。モーダルシフトが可能と思われる輸送については、既に実現してきた感があり、さらなる飛躍の為には、新たな発想が必要であった。この為、モーダルシフトは長距離輸送が対象という既成概念を取り払い、中距離で鉄道を利用することを検討し、関係者と調整・試行を重ねた結果、東京から栃木までの片道約140kmという区間でモーダルシフトを実現し、年間約800tのCO₂削減ができた。この中距離モーダルシフトのシス

テムは汎用性が高く、新しいビジネスモデルとして、我が国のモーダルシフトの底辺を拡大させることができるものと考えている。

評価 輸送手段をトラックから鉄道や船へ切り替えるモーダルシフトは遠距離が一般的という既成概念を取り払い、中距離においても鉄道利用を導入した。今回のケースでは東京から栃木までの片道約140kmの短い区間に適用し、年間約800tのCO₂の削減を実現。この中距離モーダルシフトのシステムは汎用性も期待され、新しいビジネスモデルを構築をしたことを評価した。



名称 **地中熱を利用した基礎空調換気システム (ジオパワーシステム)**

会社名・事業所名 **株式会社ジオパワーシステム**

出品者 | 地中熱を基本とした自然
アピール | エネルギー、蓄熱層を利用
して直接利用することで、冷暖房エ
ネルギーの省エネによる温室効果ガ
スの排出抑制 (一般住宅で約56%削
減)、冷暖房の使用を抑えることが
でき、ヒートアイランド対策に効果的
である。また、自然エネルギーの直
接利用を体感でき、環境教育にも役
立つことができる。

またシステム自体が換気システムを
兼ねるので導入コストが削減でき、
維持コストも換気に係る動力で運
転するため、利用者の経費負担を極
力少なくすることができる。現在、
国内では約600棟の導入実績があ
り、メイド・イン・ジャパンの環境
技術として愛知万

博の日本政府館にも採用され、H18
年新日本様式100選にも選出された
省エネシステム。



評価 | 地中熱を基本とした自
然エネルギーを、蓄熱層
を利用して直接利用する基礎空
調換気システムである。冷暖房
エネルギーによる温室効果ガス
排出を、一般住宅比で約56%
抑制でき、CO₂排出の削減に寄
与する点を評価した。夏は暑く
て当たり前、冬は寒くて当たり
前だという四季の大切さを再認
識させ、必要以上に涼しい環境
、暖かすぎる環境を求めない環
境意識を消費者にもってもらう
ことができる点も評価できる。

名称 **後付け複層ガラス (ポケットサッシ 冴6)**

会社名・事業所名 **株式会社ビッキマン**

出品者 | 既存の窓ガラスの枠に一
アピール | 回り小さいアルミサッシ
で別のガラス及びフィルムをはめ
込み、複層化する仕組み。2枚のガ
ラスの間隔や後付けるガラスの厚
さは自由に決められ、遮熱・結露
・防音に効果的である。既存のガ
ラスを捨てずに別のガラスを後
付けできるのが最大の特徴であ
り、CO₂は発生しない。室内は魔
法びん状態になり、保温性が高
い。年間暖冷房負荷 (一戸建て
30m²) については、札幌で32.2%
、東京で18.4%の削減を実現。

評価 | 既存の窓ガラスに別の
ガラス及びフィルムをはめ込み
複層化する、後付けサッシであ
る本製品は、既存の窓を利用し
て遮熱、結露防止、防音効果を
生み出すもので、エコプロダク
ツとして大変優れている。



名称 **木製ブロック「つみっく」**

会社名・事業所名 **株式会社つみっく**

出品者
アピール

間伐材を含む国産スギ材を原料とする合板から作られた軽量な中空ブロック。輸送並びに施工時のエネルギー使用量が少ない特徴を持つ。また、施工後における解体・移設はもとより、異なる用途へのリユース(例：展示ブース→東屋等)も容易。製造時の化石燃料使用量が少ない特徴を有するとともに、原料として間伐材を含む国産スギ材を用いていることから、森林整備につながる。ブロックのように互い違いに組み合わせることにより、室内のパーフォレーションや展示ブース、屋外の東屋なども、手作業を中心とした工程で簡単に作りあげることが

できる。最近では、その特性から災害避難所におけるプライベートスペースの確保等への活用も期待されている。

評価

本製品は、国産杉材を原料とする合板から作られており、また原料には間伐材も含まれていることから、わが国の森林の整備や間伐材の利用の促進に貢献するものである。

また、本製品の施工は、手作業を中心とした簡単な工程で行うことができるほか、積み上げ方により、展示ブースや屋外の東屋のほか、災害時の避難所におけるプライベートスペースの確保にも利用できるなど、その商品としてのアイデアもユニークであり、優れた製品である。



名称 **自然素材(ロハス)リフォーム、LOHAS club(顧客会員制度)**

会社名・事業所名 **株式会社オクタ**

出品者 シックハウス対応やリフ
アピール ォーム事業の環境負荷低減について検討を重ね、2002年に健康に配慮し環境負荷の少ないリフォームを行うことを決め、使用する建材を全面的に変更した。塩化ビニールクロスや化学系工業化建材の使用を極力抑え、替わって珪藻土や無垢材など自然素材を使用。顧客の健康面に配慮すると共に、ライフサイクルCO₂低減を目的としたリフォームであることから「ロハスリフォーム」と表記している。使用する内装仕上げ材の選定基準は自然素材を中心に、建築基準法で定められている内装仕上げ材の基準「F☆☆☆☆」を最低の基準として、厚生

労働省が室内濃度指針値を定めた有害化学物質等の13物質を極力含まない、または基準値以下のものを標準仕様として採用。

評価 シックハウス対応など顧客の健康に配慮し、環境負荷の低減に配慮したリフォーム事業である。使用する建材を全面的に変更し、内装仕上げ材の選定基準を厳しくして、有害化学物質を極力含まない、あるいは基準値以下のものを標準仕様として採用している。塩化ビニールクロスや化学系工業化建材の使用を極力抑え、再生素材の有効利用、珪藻土や無垢材など環境調和型の自然素材を使用するなど省エネルギーに工夫した優れたエコサービスである。ライフサイクルにおけるCO₂の低減を目的としたエコライフの推進に努力している点も評価できる。



名称 **レンタルキッズコーナー「リトルツリー」**

会社名・事業所名 **株式会社イケヤ**

出品者 「子どもたちにやさしさと
アピール 笑顔を」を合言葉にして、レンタルキッズコーナー「リトルツリー」を全国270店舗以上で運営。メンテナンス付にすることで、「いつまでも使い続けられる製品」を提供。従来、産業構

造そのものが行ってきた「消費」から「コスト消費」にチェンジし、個人や企業・団体が「モノを所有」し、「使い→捨てる」という悪循環そのものを断ち切る必要があると思い、そのような企業活動を行ってきたが、ここ6年くらいの活動により、

そういった「無駄使い」から乖離することができた。社会全体が「もったいないのでお下がりを使う」というスタイルに変化し、そういった大人の行動や姿勢が、未来を担う子どもたちへの教育になると思っている。



評価 自動車販売店や病院のキッズコーナーにおいて、木製玩具を繰り返し修繕、補修しながら使用するシステムである。従来、古くなったり飽きられたりして廃棄されていた玩具を何度も使用することを可能にし、省資源につながる新しいサービスであることが評価できる。玩具は国産材を使用し、伐採分は再び植林して、CO₂吸収源増加にも寄与している。また、玩具製造の一部を障害者支援施設に委託することで、社会貢献にもなっている。

第1回エコプロダクツ大賞 受賞一覧

エコプロダクツ部門

農林水産大臣賞
国産材合板(杉工房・松工房) セイホク株式会社

経済産業大臣賞
プリウス(DAA - NHW20) トヨタ自動車株式会社

国土交通大臣賞
難燃化リサイクル吹付断熱材
セラミライトエコ セラミライトエコG 株式会社大林組

環境大臣賞
エレクトリックコンピューター Passol (SY01J) ヤマハ発動機株式会社
(以上、関係省大臣賞4件)

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)

キリン軽量大びん キリンビール株式会社

高カロリー輸液用 総合ビタミン・
糖・アミノ酸・電解質液 フルカリック 田辺製薬株式会社
テルモ株式会社

軽量電動車椅子(TAO LIGHT II) アイシン精機株式会社

つみきハウス 株式会社つみきハウス

再生型枠「NFボード」 JFE スチール株式会社

環境配慮型照明器具 タイマーセルコン
SmartLighting Eco(FSA42666F PF9) 松下電工株式会社

燃費マネージャー(FCM-2000) 株式会社テクトム

フォトロード工法(光触媒舗装) 株式会社フジタ 太平洋セメント株式会社
石原産業株式会社 フジタ道路株式会社

フローピア「魔法びん浴槽」シリーズ(KQQI717/1721 P/X)
東陶機器株式会社

家庭用ガスエンジンコージェネレーション 大阪ガス株式会社 東邦ガス株式会社
システム エコウィル(ECOWILL) 西部ガス株式会社 本田技研工業株式会社
株式会社ノーリツ 株式会社長府製作所

(以上、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞10件)

エコサービス部門

農林水産大臣賞
菜の花プロジェクト 菜の花プロジェクトネットワーク

経済産業大臣賞
製鉄インフラを活用した
廃タイヤのリサイクル 新日本製鐵株式会社広畑製鐵所
関西タイヤリサイクル株式会社

国土交通大臣賞
モーダルシフトの推進 佐川急便株式会社
スーパーレールカーゴ 日本貨物鉄道株式会社

環境大臣賞 松下電器産業株式会社電材営業本部
あかり安心サービス カスタマークリエイティブセンター
(以上、関係省大臣賞4件)

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)

外食チェーンとのアライアンスに
よる統一リサイクルシステム ワタミエコロジー株式会社

HDRIVE(日立モータドライブ省エネサービス) 株式会社日立製作所

廃蛍光灯リサイクル処理事業 株式会社神鋼環境ソリューション

エコドライブ2000システム 株式会社エコ・クリーチャーズ
エコドライブ事業部

底泥置換覆砂工法 大成建設株式会社

「環境配慮型経営促進事業」融資制度 日本政策投資銀行
(以上、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞6件)

第2回エコプロダクツ大賞 受賞一覧

エコプロダクツ部門

経済産業大臣賞
高出力一体形自然冷媒(CO2)ヒートポンプ給湯機 (RHK-23TBA)
日立ホーム&ライフソリューション株式会社

国土交通大臣賞
再築システムの家 (URU) 積水化学工業株式会社

環境大臣賞
家庭用燃料電池コージェネレーションシステム
「ライフエル」 東京ガス株式会社
株式会社荏原製作所
松下電器産業株式会社
(以上、関係省大臣賞3件)

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)

家庭用ルームエアコン (MSZ-Z40RS・MSZ-ZXV40RS) 三菱電機株式会社

インクジェット複合機 (PIXUS MP500) キヤノン株式会社

サンドウェーブG ガラスリソーシング株式会社

洗濯乾燥機「ビートウォッシュ」(BW-DV9F)
日立ホーム&ライフソリューション株式会社
(以上、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞4件)

審査委員長特別賞(奨励賞)

ベバスト エアヒーター (Air Top 2000S) ベバストジャパン株式会社

エコプロワー (eb-C100-01) 株式会社メジャー化学

レスタープロテックス 株式会社アルケー企画

(以上、審査委員長特別賞3件)

エコサービス部門

農林水産大臣賞
茶殻リサイクルシステム 株式会社伊藤園

経済産業大臣賞
ESCO事業(日立エネルギーソリューション)
株式会社日立製作所 エネルギーソリューションサービス推進本部

国土交通大臣賞
みまもりくん いすゞ自動車株式会社

環境大臣賞
「環境銀行」環境配慮金融商品の提供 株式会社びわこ銀行
(以上、関係省大臣賞4件)

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)

オフセットインキ缶リサイクルシステム
「東洋MPエコサイクル (TME) システム」東洋インキ製造株式会社

天然ガス自動車の大量導入によるグリーン配送佐川急便株式会社

NECリフレッシュPC事業 NECパーソナルプロダクツ株式会社

業界プラットフォーム事業(共同物流) 株式会社日立物流

(以上、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞4件)

審査委員長特別賞(奨励賞)

カーシェアリング・サービス シーイーブイシェアリング株式会社

製品及び産業廃棄物の記歴管理システム 株式会社アイユー
(以上、審査委員長特別賞2件)

第3回エコプロダクツ大賞 受賞一覧

エコプロダクツ部門

農林水産大臣賞

カートカン (紙製飲料缶)
森を育む紙製飲料容器普及協議会、凸版印刷株式会社

経済産業大臣賞

ヒートポンプななめドラム 洗濯乾燥機 (NA-VR1100)
松下電器産業株式会社

国土交通大臣賞

高品質再生粗骨材「サイクライト」 株式会社竹中工務店

環境大臣賞

自己放電抑制タイプの新型ニッケル水素電池「eneloop」
三洋電機株式会社
(以上、関係省大臣賞4件)

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)

グリーンプロマックス 旭化成パックス株式会社
液晶テレビ (LC-52GX1W) シャープ株式会社
マツダMPV (DISIターボエンジンを搭載した低排出ガス・低燃費車) (DBA-LY3P) マツダ株式会社
東洋ガラス超軽量一般びんシリーズ 東洋ガラス株式会社
(以上、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞4件)

審査委員長特別賞(奨励賞)

ビオポット Z品番 (biopot ZpacH・Zach) 有限会社グリーンサポート
デコスドライ工法 (セルロースファイバー断熱材) (JISA9523) 株式会社デコス
廃プラスチック建材「エコマウッド」デッキ (D-1) 株式会社エコマ商事
保水機能付ベランダ用タイルデッキシステム材
「パーセアMTシリーズ100」(AP10MT01UF) 東陶マテリア株式会社
(以上、審査委員長特別賞4件)

エコサービス部門

農林水産大臣賞

食品リサイクルパッケージシステム 京王電鉄株式会社

経済産業大臣賞

循環型物流サービス「環境デリバリーバック」と
リターナブル包装箱「イースターバックFXモデル」の提供
スターウェイ株式会社

国土交通大臣賞

「えころじこんぼ」
(ゼロエミッションを目指した引越) 日本通運株式会社

環境大臣賞

大手町カフェ 三菱地所株式会社
(以上、関係省大臣賞4件)

エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)

「エコ定期預金」「リサイクル定期預金」を中心とした環境保護意識の高揚
敦賀信用金庫
ロジスティクスソリューション 富士通株式会社
国内初全世帯太陽光発電付き賃貸マンション「ニューガイア」
芝浦特機株式会社
(以上、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞3件)

エコプロダクツ大賞推進協議会とは

「エコプロダクツ大賞推進協議会」は、環境負荷の低減に配慮した製品・サービス(いわゆるエコプロダクツ)をさらにわが国に普及させるため、具体的にすぐれた環境配慮が組み込まれるとともに、独創性にあふれ、しかも社会的にも評価の高いエコプロダクツを表彰する「エコプロダクツ大賞」の実施などを通じて、わが国におけるエコプロダクツの振興・発展を図ることを目的に、エコプロダクツに関わりの深い民間団体が連携して2004年7月に設立されました。

エコプロダクツ大賞推進協議会の事業内容は

- すぐれたエコプロダクツを顕彰する「エコプロダクツ大賞」の実施
- エコプロダクツ大賞を受賞した製品・サービスの普及促進を図るための広報活動
- その他、推進協議会の目的を達成するために必要な活動

エコプロダクツ大賞推進協議会の会員は

エコプロダクツ大賞推進協議会は、推進協議会の事業目的に賛同する民間団体等で構成されます。
なお、2007年12月現在の会員は、
財団法人地球・人間環境フォーラム
社団法人産業環境管理協会
交通エコロジー・モビリティ財団
社団法人日本有機資源協会 の4団体です。

エコプロダクツ大賞推進協議会の役員構成は

会 長 近藤 次郎 (東京大学名誉教授)
副会長 炭谷 茂 (財団法人地球・人間環境フォーラム理事長)
副会長 南 直哉 (社団法人産業環境管理協会会長)
副会長 山下 恭弘 (交通エコロジー・モビリティ財団理事長)
副会長 兒玉 徹 (社団法人日本有機資源協会会長) (順不同)

エコプロダクツ大賞推進協議会に対するお問い合わせは

エコプロダクツ大賞推進協議会事務局
財団法人地球・人間環境フォーラム内
〒113-0033 東京都文京区本郷3-43-16 成田ビル3階
TEL. 03-3813-9735 FAX. 03-3813-9737
E-Mail : ecoproducts@gef.or.jp